# Group Investigationによる大学生のエイズ学習

## ――学習指導過程と学生のレポートに見る学習の成果――

杉　江　修　治
亀　田　　研

## 1　問題

これまでの大学生とエイズ教育の研究では，エイズに関する知識，態度などの実態調査研究が多く，学習による変容を問題関心とした研究は少ない。本研究では，大学生を対象に，知識習得，態度変容に効果が期待される授業モデルに基づくエイズ教育の実践を行い，学生のレポートの内容からその効果を検討した。

これまでのエイズ教育実践研究（舛田　1994，1995；岩崎他　1997；山田　2004，2005)は，実際に学生に対してどのような働きかけを行ったのか，その授業内容，授業過程がほとんど記述されていない。操作が不明であるところでその効果を検討しても，成果を共有することはできない。それらの論文では，どのようなスタイルで授業を進めたかについて，乏しい記述から推測するに，多くは講義方式であり，何を「話したか」「伝えようとしたか」といった，教える側の論理に重点が置かれ，実際に学生の変容を図るための十分な工夫がなされていたとは推測しがたい実践がほとんどであるように思われた。

この研究では，学生の学習への主体的参加を促し，社会的な文脈の中で有意義な学習を進めることができるGroup Investigation（GI）のモデルを応用した授業過程を導入した。GIは，イスラエルのSharan夫妻が中

心となって開発した協同学習理論に基づく，研究の手法も同時に学習可能な授業モデルである(Sharan & Sharan　1992)。

本報告では，「教職総合演習」という，調査の手法やプレゼンテーションの技術まで含む，教育実践者としての総合的な力量形成をねらいとする教職科目で，人類共通の課題としてのエイズを取り上げた。GIは，教職科目としての教科の目標と，エイズに対する知識，態度の望ましい変容という狙いの双方に有効な授業方法となろう。

教師による共通課題提示後のGIの各段階と教師・生徒の役割を一覧にしたものを表1に示す。

表1　GIの流れ

| GIの各段階 | 教師の活動 | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| Ⅰ　クラス全体でサブテーマを決め，これに対応する研究小グループを編成する（2〜3時間配当） | ・サブテーマを決めさせる<br>・探索的な討論のリーダーをつとめる<br>・共通テーマの興味深い側面に気づかせる促進者 | ・関心のある疑問点を探す<br>・それらをカテゴリー別に分類する<br>・参加したい研究小グループを選ぶ |
| Ⅱ　小グループで自分たちの探求計画を立てる。何を研究するのか，そしてどのように進めていくのか（1〜2時間配当） | ・小グループが計画を立てるのを援助する<br>・協同的なグループ活動が行えるように援助する<br>・情報源を見つけるための援助をする | ・何を研究するのかを計画する<br>・情報源を選びだす<br>・役割を割り振り，取り組む課題を分担する |
| Ⅲ　小グループで探究活動を実行する（3〜4時間配当） | ・研究のためのスキルを援助する<br>・協同的なグループ活動が行えるように援助する | ・自分たちの持った疑問の答えを追求する<br>・多様な情報源から情報を見つけだす<br>・見つけた知見を統合し要約する |
| Ⅳ　小グループで自分たちの発表を計画する（2〜3時間配当） | ・発表の計画を伝え，委員会を組織しながらスケジュールなどを調整する | ・自分たちの見出した知見のうち何が重要かを決める |

| | | |
|---|---|---|
| | | ・クラス全体に対してそれをどのように伝えるかを検討する |
| V　グループで発表する（2時間配当） | ・発表の進行をコントロールする<br>・意見交流を図る | ・発表者は発表内容についてクラスメートからの意見を求める |
| VI　教師と生徒が個人レベル，クラスレベルでGIを評価する（2〜3時間配当） | ・新しい情報の処理や高いレベルの思考，協同的な行動を評価の観点に据える | ・探求者およびグループメンバーとして，活動の諸結果を理解面も含めて明確にする |

この報告では，まず，GIによる授業実践過程を詳細に紹介する。それにより，学生の変容を媒介する条件を推測することが可能となる。その後，GIによるエイズ学習の効果を，学生が学習後の単位認定のために提出したレポートの記述の分析によって検討する。

なお，本実践は2006年度後期に実施した。

## 2　学習指導過程

GIを半期14コマのエイズ学習の授業にどのように組み込んで進めたかを以下に記述する。授業は毎時開始当初に当該時の学習内容を示す資料を配布し，学習内容の見通しを持って学生が活動できるよう図った。

### (1)　第1時

**Step 1**　HIV/エイズ理解，態度に関するアンケート調査（「HIV/エイズに関する意識調査」に関する調査　厚生労働省，NTTレゾナント株式会社，株式会社三菱総合研究所　2005で使用された質問紙）の実施。この結果の分析は別の報告で行う。なお，この調査の実施は同時にエイズに関する学生個々の認識を意識化させる機能を持つ。

Step 2　この科目の目標を解説。配布資料には次の内容を示した。

「教職総合演習は」，人類に共通する課題又は我が国社会全体にかかわる課題のうち1以上のものに関する分析及び検討，並びにその課題について幼児，児童又は生徒を指導するための方法及び技術を含むものとする（教育職員免許法より）という目標で進められる性格の科目である。
この授業では，
○人類共通の，またはわが国全体にかかわる課題の探求と深い理解を得る。
○「学び」の方法の習得。
○教職にかかわる基礎知識。
○高め合う学習経験。
以上4つの目標を持って進める。

Step 3　進め方の基本的考え方について解説した。授業への取り組み方としての基本は次の3点であることを解説した。

○参加：頭と体の参加。
○協同：高め合う仲間。
○成就：成長の確認。

Step 4　課題を明示する。配布資料には次のように示し，解説を加えた。

メイン課題：HIV／エイズをめぐる諸問題を明らかにする
取り組み方：グループで下位課題を設定して調べ学習。プレゼンテーションまで行う。最後に個人レポートを作成。
評価はグループによるプレゼンテーションとその学習を踏まえた個人レポートによる。

Step 5　グルーピングを行う。時間外の打合せなどで時間を合わせやすいように同じ学部の者同士を基本とした。人数は4～6人を指示。編成後，自分が属するグループに名前を付けさせる。その後，メンバー同士での自己紹介と携帯電話番号など連絡先交換を指示。グループごとにメンバー名を届けさせる。

Step 6　次週には各グループのサブテーマを決めるように指示。その後，

エイズという課題の重要さの意識づけを図る講義を次の2つの配布資料を用いて行う。

○資料1：エイズ動向委員会報告（平成18年8月22日）委員長コメントによるHIV/エイズ感染等の動向

○資料2：中国新聞社説（2005年7月4日）エイズ国際会議による日本の実態

**Step 7**　各グループがサブテーマを選ぶための手がかりとしてテーマの例を示し，簡単な解説を口頭で行った。次のようなテーマ例をあげた。

- 性教育とHIV/エイズ
- 総合的学習の時間で取り上げるHIV/エイズ
- 地球的課題としてのHIV/エイズ
- HIV/エイズへの政治的対応の可能性
- HIV/エイズをめぐる科学の最前線
- エイズ患者の心理とケア
- HIV/エイズと文学
- HIV/エイズとの闘いの記録
- 医療制度とHIV/エイズ

**Step 8**　教職総合演習14時間の組み立てを明示し，学習ステップの見通しを持たせた。

なお，グループ編成とグループ名は以下のようになった。

「元祖フレディに告ぐ」4名。

「本家フレディに告ぐ」5名。

「テキーラ」4名。

「VIEW21」7名。

「K. A.（ケーエー）」8名。

「MASH」6名

「一，二，三輪」5名。

「ドリンク・マミー」5名。

### (2) 第2時

**Step 1**　本時の学習内容とスケジュールを学生に明示する。第2時は次の内容に取り組む。

| |
|---|
| ①「調べ学習」の学習<br>② 協同学習の意義の理解<br>③ 各グループが選択したサブテーマの発表<br>④ グループ作業としての課題構造の分析 |

**Step 2**　この科目の重要な学習目標としての「調べ学習」とはどういうことかについて講義を行う。

先ず，教師になったときに要請される「総合的学習の時間」での実践化に，調べ学習の学習がいかに重要な意義を持つか解説する（中学校学習指導要領にある「総合的学習の時間」の解説を資料にして配布）。

次に，Sharan らの GI（日本語訳ではグループ・プロジェクト）がどのようなねらいをもち，どのように進めていくもので，どのような特徴があるかについて，前掲の表1を資料として配布し，そこに示されたモデルを紹介しながら調べ学習の進め方の理解を図る。

また，第2時が GI のモデルではどのステップに当たるかを指摘しておく。

**Step 3**　共に学ぶ協同学習の意義を解説する。協同学習については，受講生は教育方法に関する授業で学習済であるが，再度要点を確認する。

**Step 4**　グループで取り上げるサブテーマを，グループでの話し合いによって確定し，選択理由をつけて全体に発表する。

**Step 5**　サブテーマが決まったグループは，KJ 法を用いて，それぞれが取り上げた課題の構造を明らかにする作業に入る。検討の場として A3 用紙を各グループに 1〜2 枚配布し，ポストイットをひとり 10 枚程度配布する（必要に応じて追加する）。進め方については次のような手続きを配布資料に記した。

KJ法による課題構造の分析
○グループごとに集まって役割を決める（以後，役割は毎週ローテーションをする）。
○役割の分担－司会者，意見の記録係，構造図の記録係。
・テーマをめぐる事項や問題を先ず個別で考えポストイットに書く。
・全員の書いたメモを領域別に分類し，相互の関係を考えて構造的に配置する。
・話し合いの内容を書き留めておく（意見の記録係）。
・構造を記録する（構造図の記録係）。
次週までに，グループで作った構造図と，話し合いで出た意見のまとめをコピーして教員に授業前に出すこと。また各グループ・メンバーにも配布すること。

Step 6　グループごとに授業時間終了までKJ法に取り組む。教員はグループを回り，KJ方の進め方を中心に助言する。この時点では中身にかかわる助言はあえて行わず，学生の主体的思考を促すことに努める。

### (3) 第3時

Step 1　本時の目標2点，「グループプロジェクト（GI）の進め方の確認」「本時はグループでプロジェクトを計画するステップである」を明示する。各グループの構成メンバー一覧表を配布する。各グループで司会者と記録係を決める。

Step 2　作業スケジュールを配布資料に明記し，確認する。

本時のスケジュール
① 各グループで先週の議論の確認（5分）
② プロジェクトの構造図を作成
作成終了したグループは今後の検討
・テーマの絞込み
・調べる側面の明確化
・調べ方の見当付け
・調査の分担
構造図作成は本時の前半には終了すること。作成できたらコピーをとり仲

間と共有すること。

Step 3　グループごとに授業時間終了まで作業に取り組む。教員はグループを回り，集団思考を深めるための助言を行うが，学習者の主体性を損なわないための配慮を十分にする。

### (4) 第4時

Step 1　本時の作業目標2点，「グループの課題の絞込みと深化」「グループでプロジェクトを計画する」を明示する。各グループで司会者と記録係を決める。記録係は次週までに今日の議論をまとめたうえでコピーをグループメンバー全員に配ることができるようにすることを指示する。

Step 2　本時の進め方について指示する。次のステップを明示し，それにしたがって取り組ませる。

①各グループで先週の議論の確認，課題の絞込みにかかわる議論する（5分）。

②お出かけバズ：各グループとも2名がグループに残り，ほかのメンバーは隣およびもうひとつずつ隣に順に移動する。移動先で説明を聞き，元々のグループのメンバーと新メンバーを加えて討議する。（すなわちほかのグループの人が知恵を貸す）。この手続きをメンバーを入れ替えて2回繰り返す。（15分×2回）。

③もう一度もとのグループに戻り，外からの知恵を考慮に入れて議論する（40分）。

④次回に向けたまとめをする。

⑤時間があれば調査に入ってもよい。

なお，この②の「お出かけバズ」は，学生には非常に好評である。基盤は共通の課題を持ちながら，異なるサブテーマに取り組む者同士であり，生産的な交流が行われたのである。今回は②の話し合いで若干時間を延長し，⑤のステップに至ったグループはなかった。

### (5) 第5時

**Step 1**　本時の作業目標である「探求の方向について明確化し，探索調査を開始する」を明示する。

**Step 2**　「報告で用いる資料の出典を記録しておくこと」という形で，根拠ある議論のための方法の一端の習得を図った。次の具体的資料を配布し，引用の仕方，図表の表し方を伝えた。

図書，論文の書き方

e.g. 1：著書の場合

杉江修治　2004　子どもの学びを育てる少人数授業―犬山市の提案　明治図書

e.g.2：本の中の1章の場合

杉江修治　2004　授業という学びの形態　上杉賢士編「いのち・からだ・こころ」の本質的な学び（学校全体で取り組む“子どものチカラ”向上作戦！第4巻）　教育開発研究所　pp. 98-101.

e.g.3：論文などの場合

杉江修治　2004　協同学習による授業改善　教育心理学年報，**43**，156-165.

図表の書き方

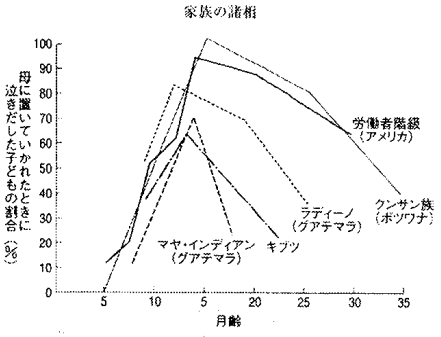


図 2-4-12　母親が出ていく状況で泣き出した子どもの比率
(Kagan 1976, Super & Harkness 1982)

表8　健康状態やストレス × 全体・性

(%)

| | とても感じる | わりと感じる | あまり感じない | ぜんぜん感じない | 性別 男性 | | 性別 女性 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 肩がこる | 24.0 | 33.3 | 24.6 | 18.1 | 49.2 | ≪ | 61.7 |
| 2. 疲れやすい | 17.3 | 48.5 | 22.6 | 11.6 | 66.9 | ≪ | 70.4 |
| 3. 何となく体がだるい | 7.7 | 32.0 | 38.8 | 21.5 | 35.9 | ＜ | 41.8 |
| 4. イライラする | 4.2 | 26.1 | 47.1 | 22.6 | 29.3 | | 30.5 |
| 5. 立ちくらみやめまいがする | 2.4 | 17.9 | 40.1 | 39.6 | 9.6 | ≪ | 25.6 |
| 6. 頭がボーッとする | 2.0 | 15.8 | 45.5 | 36.6 | 15.0 | | 19.4 |
| 7. やる気がない | 1.0 | 15.6 | 54.6 | 27.8 | 19.2 | | 16.9 |
| 8. 食欲がない | 0.0 | 6.3 | 41.6 | 52.2 | 4.2 | | 7.4 |

性別 ≪ ＜ は「とても」か「わりと」感じる割合 ≪は5%，＜は10%以上の差

**Step 3**　グループごとに授業時間終了まで作業に取り組む。過半数のグループはコンピュータ室や図書館での情報収集のため教室外で活動。教員はグループを回り，集団思考を深めるための助言を行うが，学習者の主体性を損なわないための配慮を十分にする。

(6) 第6時

Step 1　全グループがテーマに沿った報告のための調査に取り組むように指示する。また，取り組みの留意事項として次のようなプリントを配布。

> 「情報を取り出し」て，「組み立て」て，自分たちの「知見を解釈し，統合する」ステップです。途中からは他のグループからのアドバイスも有効でしょう。
>
> 情報収集では，文献研究だけでなく，観察や，質問紙調査とか，インタビューなど，自分たちの手によるデータ収集などさまざまな手法があります。
>
> それぞれ出典の明記や。資料収集の手続きを明確に記録しておかなくてはいけません。
>
> アンケート，インタビューなどを計画しているグループは個別に相談に乗ります。
>
> データ整理の方法についても相談に乗ります。
>
> ほとんどのグループが授業時間だけで成果をあげることは難しいので，うまく分担をし，それぞれのメンバーが「責任」を持って取り組む体制を作ってください。

Step 2　各グループが時間終了まで調査活動を行う。教員は資料収集のアイデア，資料の所在などについての助言を行う。

(7) 第7時

第6時と同様の展開をする。

(8) 第8時

Step 1　次の資料を用いて，「プレゼンテーションとは何か」「プレゼンテーションの留意事項」「この授業でのプレゼンテーションの進め方」「プレゼンテーションへの評価方法」について講義を行う。

## 教室プレゼンテーション解説

12月15日（2時間続き，5グループ）と12月22日（3グループ）にプレゼンテーションを行います。

プレゼンテーションは，教育現場では，総合的学習の時間などで生徒に行わせる機会が多くなってきました。しかし，教師自身がプレゼンテーションの意味を理解していないため，教育効果は薄いものとなっています。

プレゼンテーションという機会は，生徒に何を学ばせるために行うのでしょう。それは公の場におけるコミュニケーション能力でしょう。そしてそのための準備の力でしょう。合わせて聴衆となる生徒たちも，聞き方を学ぶ機会でなくてはいけません。聞く側にも課題意識を持たせて聞かせるという仕掛けが必要です。

プレゼンテーションは「限られた時間の中で聴衆に情報提供し，伝えたい内容の理解を図ること」です。そのためにはあらゆる工夫が許されます。ただ，見掛けだけ意表をついていても，本来の意義が果たされなくては意味はありません。

＜発表者の気をつけるべき基本＞

○自分たちの言いたいことを的確に相手に伝えることが何よりも大切である。

○分かりやすい話の筋道を作らなくてはいけない。

- 導入の工夫（興味を喚起する，聞くだけの値打ちがあることを知らせる，大まかなイメージを伝える，などの工夫がある）
- 具体例を用いる。
- 論理的である。

○説得力のある内容にしなくてはいけない。

- 根拠のあるデータを示す。

○分かりやすい話し方をしなくてはいけない。

- 適切な音量の声。
- 適切な速さ。適切な「間」をとる。
- ポイントがよく分かるような表現の工夫（強調，繰り返し，など）。

○聞きたい気持ちが継続できる工夫が必要。

- 話だけでない，掲示物の工夫。配布資料の工夫。
- ひきつける面白い逸話の導入。
- 音楽や芝居を入れる。

＜授業での聴衆のあるべき態度＞

○高め合うための機会であるという構えで聞く。

今回のプレゼンテーションのイメージ

持ち時間：各グループ25分。これは短いですからよほどの準備が必要です。
使用可能機器：実物投影機（OHC），パソコン。
評価の時間：プレゼン後，全員で個別に評価。評価用紙を用いる。
時間は5分。

評価のポイント

1　プレゼンは上手だったか（5・4・3・2・1）
2　このプレゼンで最も言いたかったことは何か（自由記述）
3　その結論に賛成か（5・4・3・2・1）
4　プレゼンを聞いてなるほどと思ったことは何か（自由記述）
5　その他気づいたこと

＜評価記録用紙＞

教職ゼミ（杉江）
（　　）グループ，プレゼンテーション評価票

1　このグループのプレゼンテーションは上手でしたか。
とてもよい・よい・普通・よくない・とてもよくない

2　このグループが最も言いたかったことは何だと思いますか。要約してください。

3　このグループの結論に賛同できますか。
とても賛同できる・賛同できる・どちらでもない・
賛同できない・まったく賛同できない

4　このグループのプレゼンテーションを聞いていてなるほどと改めて気づいたことを簡単に書いてください。

5　その他の意見や気づいたことを書いてください。

準備

プレゼンではレジメは1枚に限定。ただし附属資料は枚数無制限。
小道具については制限なし。
レジメ，配布資料は45枚印刷すること。

Step 2　プレゼンテーションの順番をくじで決める。

Step 3　時間終了まで各グループの検討の進展に応じて調査活動やプレゼンテーションの準備を行う。教員は各グループを回り，プレゼンテーションの内容のポイントやアイデアについて学生の取り組みを深める助言をする。

### (9)　第9時

各グループでプレゼンテーションの準備を行う。教員はグループの状況に応じて助言を行う。またプレゼンテーションの仕方の発想を広げる支援をする。

### (10)　第10時

Step 1　再度プレゼンテーションの進め方についての確認を次のプリントを用いて行う。また，個別評価のための期末レポートについても，その様式を伝える。

プレゼンテーションのイメージ

持ち時間：各グループ25分。これは長いようで短いですからよほどの準備が必要です。

使用機器：実物投影機（OHC），PC，その他。

評価の時間：プレゼン後，全員で個別に評価。評価用紙を用いる。時間は5分。

準備

レジメは1枚。ただし附属資料は枚数無制限（そうは言っても，プレゼンに必要な資料ですから，膨大になることはないと思っています）。小道具については制限なし。

レジメ，配布資料は 45枚 コピーすること。サイズは A3またはA4 。

個人レポートについて

評価はプレゼンにいたる共同作業全体と，学習後に出す個人レポートによります。

個人レポートのテーマは「エイズをめぐる諸問題」をメインタイトルとし

て，それぞれ自分の問題意識に沿った副題をつけて書く。
内容は，グループで取り組んだ事柄を軸にする。アレンジは自由。
グループの仲間同士で問題関心が重なってしまっても全くかまわない。それぞれのレポートの充実度で評価する。
枚数は指定しない。なお，評価後にレポートは返却せず，ファイルして教職センターで公開する。
締め切りは1月24日(水)。杉江研究室のドアのポストに入れておくこと。

**Step 2**　残り時間は第9時と同様，各グループでプレゼンテーションの準備を行う。教員はグループの状況に応じて助言を行う。またプレゼンテーションの仕方の発想を広げる支援をする。

### (11)　第11～13時

下の様式の配布資料の内容にしたがってプレゼンテーションを進める（示した資料は11時・12時用）。25分のプレゼンテーションの後に5分間で聴衆が評価を行い，それぞれの評価票をプレゼンテーションをしたグループが回収，保存する。

**スケジュールとメモ**

| 時間　グループ | 評価票のためのメモ |
|---|---|
| 16：45～　テキーラ<br>17：10 | |
| 5分　評価票記入 | |
| 17：15～　VIEW21<br>17：40 | |
| 5分　評価票記入 | |

| | |
|---|---|
| 17：45～　一・二・三輪<br>18：10 | |
| 5分　評価票記入 | |
| 18：15～　K.A.<br>18：40 | |
| 5分　評価票記入 | |
| 18：45～　MASH<br>19：10 | |
| 5分　評価票記入 | |

最終時の評価ステップではこのメモも使います。この用紙は保存してください。

またプレゼンテーションへの評価の留意事項，個人レポートの作成などを内容とする配布資料を用意した。

評価票の扱い

全員の評価結果はそれぞれ評価されたグループにとっては大事な情報です。授業の最後の時間に他の人からの評価をグループで検討し，反省の材料とします。

個人レポートについて

個人レポートのテーマは「エイズをめぐる諸問題」をメインタイトルとして，それぞれ自分の問題意識に沿った副題をつけて書く。

内容は，グループで取り組んだ事柄を軸にする。アレンジは自由。

グループの仲間同士で問題関心が重なってしまっても全くかまわない。それぞれのレポートの充実度で評価する。

枚数は指定しない。評価後にレポートは返却せず，ファイルして教職センターで公開する。
◎なお，次の2項目を最後につける
1　HIV/エイズに関するアピール（これまでの学習を踏まえて）……100字
2　HIV/エイズについての，自分の考えの変化……300～400字

その体裁

用紙はA4サイズ。
レイアウトは40字×36行。余白は4箇所，各30mm程度きちんと取っておくこと。
テーマの下に自分の名前を必ず書いておくこと
図表等もレイアウトを考えて入れておくこと。
締め切りは1月24日，杉江研究室のドアのポストに入れておくこと。

### (12)　第14時

各グループのプレゼンテーションについて，グループとしての自己評価を中心とした評価活動を行う。次の配布資料を用いて進め方を解説し，その手順で進める。

2回にわたりグループのプレゼンテーションが行われました。よく努力したと思います。

今日のテーマ

プレゼンテーションの評価進め方
①それぞれのグループで自分たちのプレゼンテーションに対する聴衆の評価の検討
　○役割を決める……司会者，概要の報告者，評価の報告者
②グループの発表
　○それぞれのグループのプレゼンテーションの概要
　○仲間の評価の検討を踏まえての各グループの自己評価の発表
③その発表に対するほかのメンバーからのコメント

個人レポートの公表について

教職センターにファイルをして保存する。
皆さんにも，後輩にも閲覧可能にしておきます。

最後に，下に示す教員による総括的な評価資料を配布し，コメントを加える。

2006年度後期教職総合演習　杉江総括

◎総評

○グループのプレゼンテーションのレベルは，この種の学習の経験が少なかったことを考えると十分な水準だったと思います。発表の内容は，論理性を感じるものが多かったように思います。このことは大事なことであり，いい結果でした。

○それぞれ，発表に深まりがありました。すなわち，単なる報告ではなく，考えた結果が示されていたことです。ただ，もっとしっかり考えれば，自分としてはその結論が気に入っていても，まだ十分でないということがあります。折角取り組んだことですから，学んだことをベースにさらに理解を深めていくことが必要です。

○問題に取り組み始めるときと取り組み後とで，自分がどう変わりましたか。個別にも自己評価をしっかりしておくことで，学びはわが事という認識が強まるはずです。

○仲間との協同をうまく進めることができたでしょうか。この授業では協同を経験することも重要な目標でした。協同では，単なる助け合いではなく，責任も伴う厳しさがあることも学んだと思います。協同の力は，学校教育における新しい学力に必要な側面です。なお，プレゼンテーションをする側だけではなく，聞く側の態度も課題になります。仲間の発表を真剣に聞いて，仲間を高めるという責任が学習集団として集まった全員にあるのです。

○プレゼンテーションの仕方は，今回をベースにして，次に機会があればもっと工夫しましょう。たとえ講義調であっても，聞き手を引きつける工夫はあるはずです。その他の手法を導入することも大切です。

○学び方の学習

- この授業の最大の目標は学び方の学習です。これは新しい学力の核心となる事柄です。総合的学習でめざす学力はこういう学力なのです。
- 学び方についてのノウハウを持った教師が余りに少ないという現状があります。この授業での学習過程を振り返り，実践に生かしていくことが大切です。

○授業の過程：この授業の流れはシャラン夫妻の「グループ・プロジェクト」のモデルに沿って進められました。この授業を振り返りながら手続きを確

認してください。

○授業の同時目標：この授業では，学びの方法の学習と同時に，主体的な学習，協同的な学習を経験するという目標がありました。私の指導は最小限にとどめ，学び方の枠組みを提供するというパターンで進められたことを確認しましょう。半期でこれだけの成果をあげられたことはすばらしいことです。学びのステップ，枠組みが示され，そして学びの方法へのヒントがあると，学習者自らの力によって経験で予想できる以上の成果を出すことができるのです。教師の仕事は教えることではなく，学びの進め方の舵取りです。

**◎グループ別コメント**

**テキーラ：諸外国の現状と対策 ── 我が日本はどうすべきか**

○レジメ……プレゼンの構成が分かりやすく記述されており，よかったと思います。

○発表の仕方……4人で順に発表するスタイルでした。聴衆に聞き取らせるための配慮という点では，発表者による個人差もありましたが，全体としてまだ不十分です。相手に伝わってこそのプレゼンですから，説明的に，そしてポイントをきちんと押さえて伝えようとすること，早口にならないことなど，経験を重ねて上手になりましょう。持ち時間はほぼ適切に使いました。配布資料があった方が良かったように思います。

○内容……各国の特徴，日本の動向など，適切な調べがなされていました。ただ，資料の出典については言及が不十分でした。必要です。また，一気に内容を紹介していくのではなく，まず概要を話して聴衆に大づかみな理解をさせた上で内容に入っていくという仕方をしないと，一方的伝達になってしまいます。最後の「まとめ」についてはさすがに力を入れていたせいか，工夫が見られました。

○その他……デモンストレーションでのテキーラの空瓶を生かしきれませんでした（蛇足）。ダーツで発表国を決めるという発想，苦肉の策だったかもしれませんが，聴衆を参加させる工夫となっていました。

**VIEW21：日本のエイズについて，その全体像を知る**

○レジメ……プレゼンの構成が分かりやすいとともに，ポイントも適切に書いてありました。聞く側の構え作りに役立つ良い工夫です。

○発表の仕方……発表の仕方は資料の読み上げ型で，平板な印象でした。聴衆の反応を見ながら，いかに伝えるかという工夫が必要です。まず，全体で，そして各節ごとに，発表内容の概説をしてから中身に入る方が良いでしょう。ポイントとなるところは強調しなくてはいけません。また，難し

い用語などは黒板に書くとか，ディスプレーで工夫をするとかしないと，聞いている方には分かりません。OHCを使ったのは良かったのですが，そこにどんな情報を載せるとプレゼンの助けになるかという観点から言えば，もっと工夫の余地がありました。発表時間は5分ほど短かったようです。

○内容……各項目について，適切な情報選択がなされていたように思います。ただ，ちょっと詳しすぎるものもあったかなという印象が残ります。結論の部分ですが，正しい知識だけで予防可能かどうか，これまでのエイズ啓発運動がなされながら感染が減っていかないという現実を見ると，もう一歩踏み込んだところに理由がありそうに思います。

○その他……資料がついていましたが，こちらのレイアウトは工夫の余地がありました。また，「図」と「表」は区別しましょう。資料にある図1と図2はいいのですが，図3とあるのは表1とすべきです。さらに，「図」と「表」は表記の仕方が違います。10月27日の配布資料を見て確認してください。教師になったときにはこういう基礎的な知識が結構大事になってきます。

**一・二・三輪：性教育を受けて，いかに子どもの意識を変えるか**

○レジメ……レジメはプレゼンの進め方についての情報が示されていますが，プレゼンでどんな事柄を知ることができるようになるのかの見通しを持ちにくい表現になっているように感じました。流れを書くより中身の構成を書いた方が良いと思います。

○発表の仕方……なかなか上手だったように思います。まず性教育の概説から始まることで全体の大づかみな理解ができます。また，聴衆とのやり取りは，彼らの意識を活性化させ，参加度を高めます。話し方に動作も付き，伝えたいという意欲が伝わる話し方も見られました。ただ事項の解説になると平板になってしまうというところもありました。発表時間は1分ほどオーバー。まあまあというところでしょうか。

○内容……発達に即した性教育のカリキュラムを提案するという観点は重要な点でした。ただ，中学生以降の青年期初期の若者の性意識の発達に関する確かな研究成果を踏まえていたかという点では心もとないものがありました。青年心理学の研究成果を勉強しておくともっと説得力のある，そして根拠を示すことのできる議論が可能だったように思います。なお，テーマは「性教育を受けて」より「性教育を通して」の方がよかったのではないですか。

○その他……教材研究から，さらに，それをどういう指導方法で指導すると，本物の学びになるだろうかというところまで発展すべき課題です。形だけの教え込み授業では，教材がいくらすばらしくても成果は上がりません。

日本の性教育の弱点はこのあたりにあると思いますがどうでしょう。

K.A.：エイズの歴史

○レジメ……プレゼンの構成が分かりやすいとともに，ポイントも適切に書いてありました。聞く側の構え作りに役立つ良い工夫です。ただ，「エイズの歴史」というテーマに対して最後が「7. 日本の差別問題」で終わっていますが，これだけ見ると内容の一貫性が理解できなくなりませんか。

○発表の仕方……パワーポイントの要所要所の使い方が結構上手でした。話題の枠組みを提示し，中身を順に入れていくという手法は常套ですが，うまく使いこなしていました。レイアウトも良好でした。ただ，実態の解説になると話し方が平板になっていきました。注意しましょう。8人という大所帯ではありましたが，うまく分担をして進めていた印象です。時間は2分ほどオーバーしました。

○内容……それぞれやや詳しすぎるきらいもありましたが，分割方式のプレゼンテーションとしてはうまく連携できていた印象です。ただ，やはり最後のまとめが，差別の問題で終わっており，歴史から今へのつなぎの部分を十分に議論することができませんでした。

○その他……パワーポイントの活用法では他のグループの人にも良い事例を示してくれました。8人というサイズの大きいグループでの活動を経験したことは，大変だったでしょうがいい経験だったと思います。

MASH：エイズと性教育について

○レジメ……パワーポイントをプリントアウトしたものがレジメとして配られました。学会などでは一般的な手法です。ただ，このレジメの限りではテーマと内容の整合性についてはっきりしませんね。

○発表の仕方……報告の仕方は総じて解説調で，平板な印象です。不慣れであっても伝えようという心意気を発揮しましょう。パワーポイントも静止した資料提示であったので，動きを入れると良いですね。時間が指定の半分ほどで終了しました。予行演習が必要です。

○内容……エイズの実態などは，一部は欠けていましたが多くのものについては出典をきちんと出しており，良かったと思います。さらに，自分たちで行った調査結果を資料としたところはこのグループの工夫です。ただし，調査手続きについて押さえがあると良かったと思います。折角のデータですので，これを踏まえてエイズ教育の必要性と内容の工夫を訴える根拠をもっと十分に論じたらよかったですね。性教育の指導案もいい資料です。これを使って聴衆に考えさせることも可能だったのではないでしょうか。

○その他……レジメを作った後にその流れをじっくり見直し，調整してみて

ください。首尾一貫したプレゼンにするために。

**本家フレディ：薬害エイズ**

○レジメ……分かりやすい組み立てが示されていると思います。ただ，結論にある「この凄惨な事件……」とある「凄惨」は的確な表現でしょうか。決めの言葉だけに熟考が必要です。

○発表の仕方……導入は要領よくなされました。聞く者に分かりやすい解説でした。血液製剤についてはやや詳細に入り込んだせいか単調になりました。こういう紹介は工夫が必要です。日本のエイズ患者データの厚生省発表のからくりについて，指摘はよかったのですが，いまひとつ分かりやすさが欲しかったですね。企業と役所の癒着構造，被害者の声など，訴えるところ多く，聞く側も共感できる内容のところは，一方的な棒読みにならないよう，思いを含んだプレゼンにできるといいですね。時間は2分ほど早めに終わりました。

○内容……発表の構成がきちんとなされているというのが強い印象です。授業当初の課題構造の整理作業は大変有効だということが分かります。薬害エイズの経緯については，総じて説得力のある内容だったという印象です。ただ，被害者の声など，興味深い資料ですが，資料の妥当性，根拠などの確かさが欲しかったと思います。

○その他……OHC のレイアウトは工夫の余地があります。

**ドリンク・マミー：母子感染**

○レジメ……内容を絞ったプレゼンですから，レジメの頭のところで問題意識を語る項目が合ってもよかったように思います。また「まとめ」の内容として各論として扱ったほうが良い項目が入っており，未整理の印象です。

○発表の仕方……OHC の使用や手書きの絵や，スケッチブックを使った資料提示など工夫がありましたが，むしろ OHC 一本にするというような統一した工夫の方がよかったように思います。また，全体としてアピールするような報告の仕方になっていなかった印象です。重要な課題をプレゼンするのですから，要点を伝えたいという意気込みを示しても良かったように思います。発表時間は10分ほどで終わってしまいました。

○内容……少ない資料を工夫してまとめた努力の跡が見られます。高知事件などは日本人の倫理観の問題として議論を深めることも可能だったように思います。エイズという問題はそのことから派生するさまざまな問題を孕むものだということが分かります。

○その他……なお，最後に「何か質問はありませんか」と聴衆に問いかけましたが，反応がありませんでした。フロアから意見を引き出そうとする場

合にはそれなりの発問の工夫が必要です。

**元祖フレディ：地球的課題としてのHIV/エイズ**

○レジメ……他のグループにはないレイアウトの工夫が見られました。よかったと思います。ただ，項目の発表順序を縦に見る人も出るかもしれません。矢印があるとはいっても，番号をつけておいたほうが親切でしょう。

○発表の仕方……発表のストーリー，小道具などについても他のグループにない工夫が凝らされていました。パワーポイントもなかなかのできでした。音楽を取り込んだグループは唯一でしたね。フレディを前振りに使ったのも効果的でした。ただ，グループの期待通りには聴衆が乗ってくれませんでした。聴衆を乗せるのはなかなか難しいことです。少し予行演習させてからとかいった，乗せるための仕掛け作りをしておくと良かったと思います。芸人でも，笑わせてくれるという構えでいるから聴衆も乗りがいいのであって，このプレゼンテーションのような導入の仕方では，プロがやってもスベるでしょう。ただ，導入の話し方は上手でした。時間もぴったり25分使いました。

○内容……世界のエイズ感染の実態は要領よくまとめられました。ただ，比較ができる資料があると分かりやすかったように思います。エイズ感染増大の背景には「貧困」と「意識」があるという共通項を引き出すという思考は良いと思いました。社会科学の重要な手法ですからね。知識，意識の開発の必要性が結論として示されましたが，ここは踏み込みが弱い気がします。

○その他……聴衆の反応が今一つならぬ今三つくらいでしたので，最後の方はやや意気消沈していましたが，チャレンジは十分に買えるものでした。

## 3　個人レポートに見る学習の成果

### (1)　個人レポートによる学習成果検討のための資料収集

単位認定のための条件であるレポート提出者は44名中43名であった。

レポートでは，グループで調べた情報を用いて，各自の問題意識に沿った論述を求めた。レポートではまた，末尾に

①HIV/エイズに関するアピール（これまでの学習を踏まえて），100字程度。

②HIV/エイズについての，自分の考えの変化，300～400字程度。

の2項目をつけることを求めた。

これら2項目は学生の意見変容を知る資料となるが，一方，この手続きによって教育的効果を高める意図もある。「アピール」は，公表を前提としたレポートにそれを書くのであるから，集団意思決定に類似の手法であり，学習者の学習内容への関与を高め，態度変容を促す手続きとなる。「考えの変化」は，学びの振り返りであり，学習による自身の変化を手ごたえとして確認する，自己評価的意義を持つ手続きである。

### (2)　レポートで言及されたエイズ関連事項

レポートで言及されたエイズ関連事項の内訳を分析することによって，受講生がどのような範囲の情報に触れたかを明らかにする。それらの事項は，全員で共有したものではない。44名のGIによる学習範囲の広さを示すものである。

分析は，全員のレポートで言及されたエイズ関連の用語を網羅的に点検，ピックアップし，類似の内容を同じ範疇に数え入れ，出現頻度も加えた。

レポートで触れられた内容は大きく次の4領域に分けられる。

①HIV/エイズの基本的理解

②HIV/エイズ感染の動向

③HIV/エイズへの対策

④性教育

以下に，この4領域別に結果を検討していく。

#### 1）HIV/エイズの基本的理解に関する事項

グループでHIV/エイズをめぐる諸問題に取り組む際，学生の最初の取り組みは課題自体の理解であり，HIV/エイズの理解であった。レポートで多様な知識・理解の様相を見ることができた。

先ず，**感染経路**への言及が多く見られた。そしてその主な4経路，すなわち同性間，異性間の**性的接触**（21名），麻薬注射の打ちまわし，採血等による**血液接触**（15名），**母子感染**（18名），**血液製剤**（10名）を多くの者があげていた。性的接触では，同性間の接触への言及は僅少であった。

血液接触では，売血（1名）を問題としてあげている記述もあった。母子感染については，そのメカニズムまで詳しく解説した者が5名いた。女子学生にとって重要な問題と捉えられたためと思われる。血液製剤では，5名が**血友病**にも触れ，薬の解説にも踏み込んでいた。感染経路についての迷信に触れた記述も1名見られた。

HIV感染者，エイズ患者に対する**偏見と差別**の問題は20名と，約半数が言及した。具体例としての**高知事件**（4名），**松本事件**（1名），**神戸事件**（1名）なども紹介された。また，エイズ患者への**医療差別**にも3名が言及した。これには意外の感が強く表明されていた。**エイズ治療薬**にも関心が払われた。10人が言及している。その効果（4名），用法（2名），副作用（2名）価格（2名）といった具体的内容にも言及があった。

さらに，日常ではあまり語られることのないエイズ関連用語もいくつか見出すことができた。**日和見感染症**（3名），**カポジ肉腫**（2名），**世界エイズデー**（1名），**レッドリボン**（2名），エイズの正式名（Acquired Immunodeficiency Syndrome　1名），HIVの正式名（Human Immunodeficiency Virus　1名）等。また，エイズにまつわるさまざまな社会的・文化的課題の指摘もなされた。**エイズ孤児**（3名）についてはその発生と実態への言及があった。教育制度が不十分な**低開発国の迷信**に触れた者は2名いた。**薬害HIV訴訟**について，用語として触れたのは1名，**性感染症**を取り上げ，HIV/エイズを感染症として捉える観点を示した者が4名いた。HIV/エイズに対する社会の対応としての偏見と差別の経緯を含んだ**エイズの起源と歴史**については，10名が言及した。また，**貧困**との因果関係を解説した者も1名いた。**感染者・患者の心理**に踏み込んだ記述は1名に見られたのみであった。

2）HIV/エイズ感染の動向

HIV/エイズの感染の広がり，世界各国における対策などの実態把握についても，課題理解の基礎情報として検討した跡をうかがうことができる。

**世界の感染動向**を紹介した者は15名であった。**日本の増加傾向**を指摘した者も15名であった。**低開発国の実態**に限って紹介をした者は8名い

た。そこで取り上げられた国は，南アフリカ連邦，ケニア，タンザニア，ウガンダ，ジンバブエ，マラウイ，ザンビア，コートジボアールの各国である。その他にも，アメリカ合衆国，イギリス，中国の実態の紹介があった。

**ゲイの感染率**のデータに触れた者は2名であった。**薬害エイズの発生動向**に触れた者は2名であった。また感染率と他の要因とのクロス集計データにも若干の言及があった。性交経験率との関係について1名，コンドーム使用との関係について3名，年齢との関係について1名が言及した。

3）HIV/エイズの対策に関する事項

HIV/エイズへの対策に関する議論は多様な形でなされた。

まず，前提となる実情の理解についての記述がいくつか見られた。低開発国が抱える課題としての貧困，教育機会のなさ，薬の普及を妨げる課題など6名が言及した。日本については，取り組みの遅れ，行政，国民の問題意識の低さを明確に指摘する者が4名いた。また，人類の課題として世界各国の連携の必要性を指摘した者が1名いた。

具体的対策について，日本でなすべきこと，外国の事例と課題等さまざまな角度で触れられた。

日本での対策に関しては，薬害エイズに触れた者は10名であったが，そのうち4人は事件の経緯と責任の所在の議論にも踏み込んだ記述をした。行政の基本的な取り組みの構えについての疑問は受講生の関心を引き付けたようである。

具体的な対策として3つをあげる者が多かった。まず**HIV抗体検査**を受けることの必要性をあげた者は12名いた。その多くは受診の仕方にも言及していた。次に**性行動文化**の問題性をあげた者が5名いた。さらに，**コンドーム使用**の普及が必要だとする者が6名いた。

そのほか，関連する内容として，感染者への**人権的配慮**の政策的対応の必要性（1名），現実のHIV/エイズ問題への取り組みの困難さ（1名），幅広い**キャンペーン**の必要性（2名）などがあげられた。キャンペーンでは，1992年の**ストップエイズキャンペーン**に2名共に言及した。また，

**厚生省エイズ研究班**（1名），**エイズ予防情報ネット**（1名），**厚生労働省エイズ動向委員会**（1名）などの名称があげられていた。

なお，対策のポイントとして，感染者・患者への**カウンセリング**，**ホスピス・ケア**の必要性を3名があげていたが，踏み込んだ議論はなされなかった。

諸外国での対策に対してはさまざまな具体的事例が紹介され，比較的関心が高かったことがうかがえた。

プログラムや機関としては**国際連合エイズ合同計画**（Joint United Nations Programme on HIV and AIDS，**UNAIDS**）を紹介した者が2名，**WHO**が2名，**UNICEF**が1名，**国際赤十字**が1名あった。事例紹介をしたのは，中国1名（**エイズトランプ**の紹介が詳しかった），アメリカ合衆国1名，フランス1名，ジンバブエ3名，南アフリカ連邦1名，ザンビア1名であった。

なお，HIV/エイズ蔓延の背景を検討したレポートもあった。女性の権利，宗教といった側面を含む社会構造の変革が必要という指摘（2名），ストレス社会が問題性を持つとの指摘（1名），マスコミによる性情報の氾濫（1名）などがその内容であった。

4）性教育

**性教育**については16人が言及した。受講生は教職志望であるため，関心の高い領域であった。この問題を論じる前提として，近年の若者の**性行動の変化**を指摘する者は多かった。また性情報の入手経路の実態に問題があることも指摘された。

日本の**性教育の有効性**に疑問を投じる者が9名いた。その理由として，知識注入型に終始している点（8名），学習者の問題意識の形成が必要（1名），教師の問題意識の不足（1名）配当時間・カリキュラムの準備・指導体制の不備（1名）などが具体的に指摘された。

性教育によって**正しい知識の習得**が肝要であるという意見を述べた者は9名いた。しかし行動の変容までを見通した議論を見ることはできなかった。知識がそのまま行動の変容に結びつかないという点についての着眼が

不足していたようである。

性教育の進め方の工夫については，発達段階を考慮する必要性（発達の前傾現象にも多くは言及　8名），青年心理の成果を踏まえる（2名），生徒に考えさせる授業過程をとる（4名），問題を身近に感じさせる工夫を加える（4名），学校・家庭・地域の連携を図る（7名）などがあげられた。連携の指摘ではとりわけ家庭教育の重要さに力点を置く意見が多かった。

性教育の目標をあげた者もいた。性行動文化の変容（1名），個人の自立（1名），他人の尊重（1名），世界的課題としての認識の促進（2名）などである。ただ，ここでは感染症の理解とかウイルスの特性など，科学的理解への言及は見られなかった。

さらに，実際の授業など，実践事例を紹介した者もいた。中学校，高校での授業計画例を紹介したもの（4名），コンドーム着用の具体的指導の必要性（5名），外国（アメリカ合衆国，中国）の性教育の事例紹介（2名）があり，また文部科学省の**エイズ教育推進地域事業**の紹介も1名がしていた。

5）まとめ

以上の検討を通して，受講生たちがHIV/エイズに関しては相当幅広い領域にわたる情報を渉猟した跡を見ることができる。後のHIV/エイズについての，自分の「考えの変化」をまとめた資料でもうかがえるのであるが，受講生たちは自分たちが半期の授業の過程で獲得した知識については相当の自信を持っていたようである。

ただ，単にHIV/エイズそのものの知識に止まらず，社会全体とのかかわりの理解も必要な領域だけに，学生では気づかないさらに幅広い領域もある。それについては，授業当初の下位課題の提示時に，より適切に視点を与えておく必要があったように思う。

例えば，受講生たちは同性間の性的接触への気づきが少ない。ゲイ社会に着眼する視点をあまり持っていない。視野を広げる課題として，これを当初に示しておくことは有益だっただろう。また，感染者，患者の心理についても目が向けられることが少なかった。カウンセリングやホスピス・

ケアなど，そこにも重要な課題があり，関心を向けさせる仕掛けが必要であった。さらに，外国の動向を主に扱ったグループは2つあったが，国際的な連携ということばを書いた者は1名にとどまった。これも是非考えさせたい側面であった。

性教育については，多くの学生が自身の経験を振り返ってその効果の低さを嘆いていた。ただ，彼らの記述を見ると，性教育の目標は正しい知識の習得の重要さというところに止まっており，生徒の主体的参加を促す授業過程への想像力は見ることができなかった。グループごとの取り組みの過程での指導者からの適切な介入の工夫が必要であったと思われる。

### (3) レポート末尾のアピールの内容

レポートの終わりに100字で「エイズに関するアピール」を書くことを要求した。下に43名のそれを付す。

ただ，アピールの趣旨，すなわち「世論への広い訴えかけ」という点での理解が不十分であり，必ずしもアピールの形になっていない記述が多く見られた。多くは「最も言いたいこと」が示されていたように思われる。

受講生が100字の中の入れ込もうとした事項を，それを書いた記述番号とあわせてまとめると，下表のようになる。

表2　アピールへの記述内容

| 事　　項 | | 記述番号（人数） |
|---|---|---|
| 感染の実態解説 | | [1]，[2]，[6]，[14]，[19]，[22]，[24]，[25]，[31]，[33]，[41]　(11) |
| 問題意識を持て | 日本人に対して | [1]，[9]，[14]，[16]　(4) |
| | 政府，マスコミに対して | [2]，[14]　(2) |
| 大事と思う知識の端的な解説 | | [4]，[7]，[21]，[27]，[28]，[31]，[34]，[36]，[38]，[39]，[41]，[42]，[43]　(13) |
| 誰もが罹る可能性があることの指摘 | | [8]，[10]，[17]，[23]，[28]，[35]，[36]　(7) |

| | | |
|---|---|---|
| 正しい知識を身につけよ | | [3], [5], [7], [9], [10], [14], [15], [16], [17], [18], [19], [20], [22], [24], [26], [27], [28], [29], [30], [32], [33], [35], [37], [38], [43] (25) |
| 性教育 | 充実を図れ | [14], [15] (2) |
| | あり方の工夫必要 | [12], [40] (2) |
| | 早期から必要 | [2], [5], [37] (3) |
| | 家庭での性教育必要 | [37], [40] (2) |
| 個々人の予防行動の訴え | | [3], [7], [9], [14], [17], [21], [25] (7) |
| HIV 抗体検査を受けよ | | [13], [23], [42] (3) |
| 偏見と差別を無くせ | | [18], [20], [25], [26], [27], [30], [32], [35], [43] (9) |
| 思いやる気持ちが大事 | | [9] (1) |
| 薬害エイズへの言及 | | [8], [10], [11] (3) |
| 国際的連携の必要性 | | [41] (1) |
| この問題をさらに学びたい | | [29] (1) |

「アピール」の中で最も多く言及されたのは「正しい知識」の必要性であった。受講生自身が協同的な学びの中で身につけることのできた知識の有用性に手ごたえを感じたことの証左である可能性が高い。「感染の実態」や大事だと考える「用語の端的な解説」を付している者も多く，学んだ知識を伝えて，広く力にしたいという思いがうかがえるように感じられる。「性教育」の必要性をさまざまな角度から触れている実態もあった。これも正しい知識が必要性だという理解と密接に関連していると考えられる。

なお，HIV/エイズの問題を社会的な課題と位置づける認識も「偏見と差別」「薬害エイズ」などに見られた。エイズという課題は，それを単に恐ろしい病気の一つとして捉えるのではなく，まさに教育職員免許法に定められた必修科目「総合演習」の趣旨である「人類に共通する課題又は我が国社会全体にかかわる課題」として学びが進む，適切なものであるとい

えよう。

［1］日本のHIV感染者は増加傾向にある。にもかかわらず，日本人の問題意識は低い。皆，身近な問題として感じていないのである。この意識改革のためにも，低年齢からの性教育が必要である。

［2］現在日本ではHIV/エイズ患者が増加しているにもかかわらず，マスコミ，政府の扱いは大々的ではない。日本はもっと大々的に教育，マスコミ，政府がHIV/エイズに関した問題を取り上げるべきではないだろうか。

［3］エイズは決して特別な人だけの病気ではなく，誰にでも感染する可能性のある病気である。エイズに関する必要な知識を身につけ，個人個人が予防を心がけることによってエイズの拡大が防止できるのである。

［4］HIVとはウイルス名で，エイズはその発病の状態を示す病名である。HIVウイルスの感染経路は血液感染，母子感染，性交渉である。エイズは治療薬がなく，発病すれば他の病気により死ぬ確率はきわめて高い。

［5］私はエイズについて正しい知識を学ばなければいけないと考えました。そのために，まず，中学校の授業では，エイズについての正しい知識を正確に伝えていく必要があると思います。なぜならば，幼少期に学ぶことはその後の人格形成の基になるからです。

［6］先進国中，感染者が目立って増加し続けている唯一の国が，他ならぬ日本だ。2005年の新規患者・感染者は1984年に調査をはじめて以来，初めて1000人を越えた04年を上回る過去最高となった。UNエイズが発表した2005年末現在の情報で，新規感染者の3分の1が30歳未満の感染で，若い男女の性行動の活発化と危険なセックスの増加について警鐘を鳴らしている。

［7］HIVは感染力が弱く，感染経路も限られているため，予防は可能である。日常生活では，性行為以外に感染することはまずない。正しい知識を元に，自ら性行為とその手段に対して判断できるのは自分だけだという認識を持つことが大切である。

［8］日本のエイズの原点は薬害エイズである。しかし，だからといって一般人が罹らない病気というわけでもない。現在の日本にとって，ここのポイントが欠如しているようだ。われわれはこの点を重視しなければならない。

［9］日本ではエイズに関する教育もされており，検査体制も整っている。愛する人や自分を守るためには，正しい知識を持ち，無防備なセックスを避け，相手のことを思いやる心を持ち，自分たちの問題としての意識を持つことが大切である。

［10］エイズは誰にでも感染する可能性がある。しかし，正しい知識と予防の気持ちがあれば，薬害エイズなど，自分の意思で防ぐことができないこともある

が，基本的には防ぐことができる。

[11] 私たちが発表を通して伝えたかったのは，我がグループのメインテーマである「薬害エイズを忘れてはいけない」に凝縮される。法的には解決してしまった問題だが，今も苦しんでいる人は大勢いる。それを忘れてしまってはいけない。

[12] 日本の性教育は遅れており，形だけで，子どもの実際の成長にまったく役立たない。授業は受身でなく，生徒自らが疑問を持ち，考えていくようにしなければならない。そのためにも日本の性教育を考え直していく必要がある。

[13] エイズ/HIV であることを隠さずに，気になったら近くの検査機関に行くことがこの病気との共生の第一歩ではないか！ 今は医療も進歩して，すぐに死んでしまうような病気ではなくなり，治療さえ行えば普通の生活ができる。

[14] 日本は世界に比べエイズについての関心が低いため，感染者が急増している。エイズは身近な問題であり，自分の意思で予防できる病気である。したがって，しっかり国レベルでの性教育を徹底すべきである。確かな理解がエイズの撲滅や差別解消につながるのだ。

[15] 日本でも海外でも，先ずは知識を与えることが必要であると思う。たとえば，日本であれば保健体育の時間に HIV/エイズについて時間をかけて詳しく教えるなど，もっと知識を与えていく必要があるだろう。

[16] エイズ感染予防，差別の撲滅を推進するためには，先ず，エイズ，HIV について正しい知識を得るというのが大前提である。何も知らずに噂や勝手な思い込みで判断するということはとても恐ろしいことである。また，知識だけでなく，エイズに対する意識についても変えていかなくてはいけない。

[17] HIV/エイズは，誰でも感染する可能性があります。感染してからでは遅いのです。感染予防，そのための知識を正しく得ることがとても重要だということを忘れないで欲しいと思います。

[18] エイズ感染者を減らし，エイズをきちんと理解してもらうために，もっとエイズについて学ぶ場が必要だと思います。基礎知識を十分定着させれば，HIV 感染をしないように意識が高まると思います。エイズ患者に対する誤った偏見や差別をなくすためにも必要なことだと思います。

[19] 若者を中心に，その増加傾向が著しくなっている今，次世代を担う若者一人ひとりが正しい知識を持ってエイズの予防に真剣に取り組まなければならない。そうすれば，必ずエイズ患者は減るはずだ。正しい知識が必要である。

[20] HIV にしろエイズにしろ，ただ漠然と「怖い」というイメージが先行しており，実際には日常生活で感染することが稀であるということを知る人が極めて少ない。事実を見極め，感染者とも対等に接することが重要である。

[21] HIV の感染そのものは，自身の注意一つで防ぐことができる。空気感染も接

触感染もしないので，通常の社会生活をする分には先ず感染する機会はない。そう考えると，本来は感染力が低いウイルスのはずなのだ。

[22] わが国のエイズをめぐる状況は，エイズ患者・HIV感染者の増加，感染原因に占める異性間性的接触の割合の増加，日本人感染者の増加等の新たな局面を迎え，より一層の感染予防対策が必要となっている。最も早急にできる対策としては，皆にこの病気の恐ろしさ，悲しさ，感染の仕方を知ってもらうことです。

[23] エイズは「自分には決して起こらないだろう」と考えてはならない。いつ発症するか分からない。知識があれば，誰だって気をつけるようになる。不安に思ったら検査に行こう！ 匿名で受けられ，人に知られる心配なし！

[24] エイズはとても恐ろしい病気で，今，世界中にすごい速さで広がっています。これは日本でも言える話です。この病気の広がりを止めるには，先ず世界中の人々がこの病気のことを，感染経路や対策など，もっと理解しなくてはなりません。

[25] 先進国の中で唯一日本だけがHIVに感染する人が年々増加傾向にある。その多くは性的接触により感染している。しかしこれは，コンドームの使用など正しい対処をすれば防ぐことができる。また，感染者や患者の方への対応でも，不当な偏見や差別をなくしていかなければならない。

[26] エイズが完治する薬ができるまで差別は続くだろう。しかし，エイズ差別を和らげることはできる。それは「知る」ということ。「知る」ことは恐怖を吹き飛ばす有効な方法。

[27] エイズ・HIVという病気は，普通の生活を送る上で他人にうつすということはない。個々人が正しい知識を持ち，エイズ患者に対する態度を改めれば，差別は起こり得るものではないのだ。

[28] エイズは普通に生活しているだけでは感染しない。エイズについての正しい知識を持ち，世界全体でこの問題に取り組んでいこう。自分には関係のないことと考えるのではなく，自分も役に立てると考えるようにしよう。

[29] 多くの知識を得たことで，エイズをもっと深く知りたいと思うようになりました。さまざまな事例を調べても，自分として身近に感じられないという気持ちがあったので，今度は自分の住んでいる町のホームページを見て，どういった取り組みがあるのか調べたいです。

[30] まずはエイズという病気について知ろう。知識を得ることで，自分の身をHIV感染から守ると同時に，HIV感染者，エイズ患者とどう接していけばいいのかが分かる。そうすれば差別もおのずと消える!!

[31] 先進国の中には患者数が横ばいに抑えられている国もある中，日本はエイズ患者数が増加の一途をたどっています。また，エイズ感染は性的な部分での

感染が多いので，それを身近に感じることからエイズ予防の一歩を踏み出すのだと思います。

[32] 興味本位でセックスをする現在では，HIV/エイズ（性感染症）の脅威を知らない人が多い。間違った知識によってできた偏見や差別をなくすためには正しい知識をつけることである。正しい知識によって，差別のない社会にすべきである。

[33] HIV/エイズに関する正しい知識を身につける。身につけるということがエイズの起源を知ることになったり，エイズの感染経路を知ることになる。そうすれば，日本国内での拡大は制御されていくのではないだろうか。

[34] 授業を通して，さまざまな HIV やエイズについて勉強してきました。HIV の感染ルートが母子感染をはじめとして，薬害エイズや世界のエイズ感染の割合や性交渉による感染など，とてもたくさんの感染ルートがあることに驚きました。エイズの発祥が同性愛者による性感染症であることを知り，とても驚きました。

[35]「エイズ」はいつまでたっても他人事，自分には無関係という考えから差別が出てくると思います。また知識の無さからも差別は生まれてくると思います。

[36] 今回の授業では共同作業の大切さを知りました。私が今まで持っていたエイズに関する知識では乏しすぎたことが分かりました。仲間の意見などを聞き，エイズ理解が深まったと思います。エイズは身近な問題であり，誰でも罹り得る病気です。しかし予防などもあり，必ずしも死につながる病気ではないことを忘れてはいけないと思いました。

[37] 子どもたちにエイズの正しい知識を身につけさせ，エイズに対する意識を高める。そして，自ら予防できる子どもを育てたい。そのためには，家庭内で性教育を行うことや，学校で早期段階での性教育を行うべきではないか。

[38] エイズは，現在の医学では感染すると治ることのない感染症です。しかし，ウイルスの感染を早く見つけ，適切な治療をすれば発病を抑えて，健康な人と変わらない生活を送ることができます。正しい知識を身につけ，必要以上に HIV/エイズを怖がったりしないことが大事だと思います。

[39] 医療技術が進歩したおかげで，エイズに感染しても適切な時期に治療を受ければ症状を改善できるようになりました。女性が感染している場合でも，妊娠，出産を諦める必要はありません。薬と帝王切開と断乳で感染はほぼ防げます。

[40] 今の性教育の課題は，大人が性についてタブーと思い逃げるのではなく，現実を見て子どもと話し合い，正しく理解させることだと思う。

[41] 現在世界では約 4030 万人の HIV 感染者が苦しんでいる。そして，毎年 310 万人の人が HIV で死亡していっている。4030 万人の感染者の内，約 2580 万

人がサハラ以南アフリカの人たちである。彼らにはエイズ教育を受ける場すらないし，治療を受ける場もない。わが国では，そのような環境はあるにもかかわらず今なおHIV患者が増加している。先進国として，早急にわが国のHIV問題を解決すると共に，発展途上国に手を差し伸べていかなくてはいけない。

[42] 現代医学では完治は難しいようだが，薬剤の投与によりエイズの発症を遅らせることもできる。そのため早期発見することがポイントで，疑わしい機会があった時は，勇気を出して検査を受けることが大切である。

[43] エイズに関する正しい知識を持たなければいけない。母子感染でも，対策をすれば感染率は0%に近くなるのだし，簡単にうつるものではないのだから。偏見，差別をしてはいけない。

### (4) レポート末尾のまとめに見られる考えの変化の自覚

約400字でまとめられた学習後の自身の変化についての記述を，下に原文のまま掲げておく。そこでは，総じて学習後の自身の変化が明晰に自覚され，述べられている。また，記述の隅々から，主体的に学びに参加したことの充実感をうかがわせる記述になっている。実際，授業者による半期の授業における学生の参加様態の観察では，資料収集への熱心さ，意見交換の活発さなど，積極的な行動に満ちた活動がなされており，レポートの記述と一貫したものがあった。

それらの多くは，HIV/エイズ理解に関する学習前の自身の状況について触れている。その一つは「知識の乏しさ」であり，23名（[1]，[4]，[5]，[7]，[9]，[10]，[13]，[14]，[15]，[16]，[19]，[20]，[21]，[26]，[27]，[28]，[29]，[31]，[33]，[34]，[38]，[39]，[40]）が言及していた。また，この問題への「自身の関心の低さ」を記した者は17名（[10]，[11]，[12]，[14]，[15]，[17]，[22]，[27]，[28]，[30]，[31]，[32]，[37]，[40]，[41]，[42]，[43]）いた。

具体的な変化のポイントとして二つの側面が見られた。一つは「誤解の解消」であり，もう一つは「新しい知識の獲得」である。

「誤解の解消」の側面としては，感染経路に関する誤解（[1]，[5]），コンドーム使用の意義（避妊のためだけではない）（[1]，[31]），HIVとエイズの違い（[4]，[20]，[21]），噂の否定（[7]），感染者・患者への偏見

（[9]，[10]，[19]，[40]，[41]），汚いというイメージ（[26]），HIV の感染力やエイズの症状（[28]，[29]，[38]，[43]），母子感染の理解（[39]），問題の重大さ（[41]）といった側面があげられた。

「新しい知識の獲得」では，感染の実態（その広範さ，増加傾向［2]，[9]，[14]，[16]，[30]，[31]，[32]，[40]，[41]，[42]），さまざまな対策事例の存在（[2]，[3]，[18]），エイズそのものでは死なないこと（[5]，[13]），HIV の感染力（[5]），同性間性交の感染率（[6]），感染経路（母子感染等［7]，[13]，[18]，[34]，[36]，[39]），エイズを取り巻く複雑な課題の存在（[11]），差別の存在（[12]，[15]，[27]，[28]，[29]，[32]，[34]，[40]），薬害エイズ事件（[20]，[22]），HIV 抗体検査（[23]，[29]），エイズにかかわる団体の存在（[29]），エイズの歴史（[32]，[33]）を数えることができた。

以上の変化は，主に知識の側面の事柄である。ただ，感染者・患者への偏見や医療差別，エイズ孤児など，偏見と差別という社会的態度の側面で，これまで自分が気づいてこなかった事については，強い反省の気持ちを文章の表現からうかがうことができる。薬害エイズを取り上げた少数の記述では，強い義憤の念をうかがうことができた。

知識，気づきの変化は上にまとめた通りであるが，さらに学習によってエイズ問題に対する態度がどのように変化したかをうかがう資料についても分析を加えた。態度の 3 成分である「感情」「認知」「行動」のうち，「感情」については，エイズの撲滅を願うところで一致しており，特に記述に現れるということはなかった。そこで，「認知」面でどのような変化が見られたか，さらには「行動」面の変化に強く関連する記述がどれほど見られたかを見てみよう。

「認知」面では，多様な側面での表明を見ることができた。HIV/エイズへの対応としての知識・理解の促進の必要性は，最も頻度高く言及が見られた。「自分自身がこの問題に関する理解を深める必要性」の表明（[5]，[20]，[39]），「理解を外に広げる必要性」の表明（[12]，[18]，[22]，[23]，[26]，[27]，[32]，[33]，[35]），さらに，それらと関連する「性教育の改善必要性」の表明（[1]，[3]，[8]，[25]，[37]，[41]）等がそれにあ

たる。また，自身として継続的にこの問題について，どう対応するかも含めて考え続けて行きたいという趣旨の表明も比較的多く見られた（[4]，[9]，[10]，[11]，[17]，[28]，[29]，[36]）。さらに，社会的問題としての認識を示す表明もあった。「重大な問題としての危機感の必要性」（[16]，[34]），「患者の人権を尊重する必要性」（[42]），「政策的な対応の必要性」（[2]，[22]，[41]）などがそれにあたる。

一方，行動の変化につながると思われる「行動」面の記述は，「認知」面に比べると多くはなかった。「学んだことを伝えたい」（[14]，[33]，[37]，[38]），「感染者・患者の手助けをしたい」（[13]，[35]，[38]），「できることがあったら実行したい」（[24]），「予防に努める」（[30]）などがそれにあたる。

「行動」面の記述が実際の行動変容をもたらすかどうかは定かではないが，参加型の授業においても，必ずしもこの側面で十分な成果を得るにはいたっていなかった。さらなる工夫が必要であろう。

なお，同じ資料の中に，課題の教示に含めなかったにもかかわらず，今回の授業の進め方に対する評価につながる記述があった。「他のグループの意見を聞いて新しい知識を得ることができた」という趣旨の記述（[1]），「自分で調べ，仲間と知識を共有し，全体に向けて発表するために内容を練り上げていく過程で……自分自身の考えもできた」（[7]），「自分たちで調べ，発表したことで，……エイズを身近なものとして捉えるようになった」（[11]），「他の班の発表を聞いて，すべての経路のことが大切だと思いました」（[36]），などである。

［1］今まで自分は，HIVの感染は性交渉によるものが一番多く，中でも異性間によるものが多いと思っていた。しかし，他のグループの発表を聞いて，異性間より同性間のほうが多いと知り，考えを改めさせられた。性交渉といえば異性間と考えていたから，自分は驚いたのだ。同性間に多い理由は，妊娠を心配する必要がないためコンドームを装着しないからである。コンドームを妊娠予防と考える人は多くいても，性病など病気の予防のためと意識する人は少ない。ゆえに，同性間での感染が多いのだ。ということは，性教育をする際，同性間でもHIVに感染するという事実を伝える必要があるだろう。で

ないと，今後も同性間の性交渉が原因で増加の一途をたどることになる。今回のプレゼンで正確な事実を知り，学校での授業内容を変化させなくてはならないことに気づき，有意義な時間だった。

［2］日本はHIV/エイズに関して後進国であり，他の主要先進国に比べ，ほとんど効果的な対策を行っていないことがわかった。以前はHIV/エイズに関する知識がほとんど基礎知識的な事柄しかなかったが，他の先進国ではさまざまな対策を立てていることが分かった。また，HIV/エイズというものは対岸の問題としてしか考えていなかったが，意外と身近な問題だということが分かった。自分が中国の対策を調べていて，これはいいと思ったこととして，エイズ予防トランプがある。中学生，高校生はトランプをよく使って遊ぶ。その絵柄にHIV/エイズの知識を盛り込めば，エイズ教育を行わずとも，自然にHIV/エイズの知識を持つことができると思う。日本はもっとさまざまな対策を行うべきだと感じた。

［3］日本がエイズ後進国であることは前から分かっていたことだが，他の先進国が行っているエイズ対策を調べてみると，いかに日本のエイズ対策がいい加減なのかが見えてきた。他の先進国が行っているエイズ対策の中でも，特に日本にも取り入れるべきだと思ったのが，中国のゲイ専用コンドームと，フランスの安価なコンドームを高校・大学の購買部で販売するという政策である。コンドームが100%エイズを予防するのかといえばそうではないが，感染経路のうち圧倒的に多い性交渉においてエイズ予防を徹底すればエイズ拡大防止の第一歩となるのではないだろうか。そしてエイズに関する正しい知識を身につけるために，性交渉未経験の内から，セレモニーではなく，児童生徒自身が考える性教育の徹底を行うべきである。

［4］先ず，自分自身のHIVとエイズについての知識が非常に曖昧だったということがよく分かり，HIVとエイズに対する自分自身の認識に大きな変化があった。そして，このことからHIV，エイズをめぐる諸問題に自分がどう向き合っていくのかということをより身近に考えることができるようになった。また，実際に身近にエイズ患者がいた場合，距離を置くのではなく，どう接していくのかということを考えられるようになった。エイズという病気は，自分にはまったく関係のない病気であるという考え方が頭の中から消え，これからエイズ患者を減らしていくにはどうしたらいいのかなど，エイズの未来について考えて行きたいと思うようになった。

［5］以前の私のHIV・エイズの知識は拙いもので，偏見による知識や妙な都市伝説じみた噂を信じていました。また，エイズ患者は乱れた性によって感染した人なので，自業自得だと思い，自分はエイズになることはないとも思っていました。しかし実際に調べていくと，私のエイズへの考えは全く違ったも

のであったと思いました。乱れた性もエイズ拡大の要因の一つではありますが，ここまでのエイズの拡がりの一番の原因は，熱消毒をせずに輸血をしたためであることが分かりました。HIVは特定の条件下でしか感染しないこと，エイズ自体で死ぬことはないことなど，調べていくうちに私の考えを改める必要があると感じ，それまで偏見でエイズ患者を見ていた自分が情けなくなりました。

［6］今回エイズに関することを調べている中で一番驚きであり，学んだことは，男性同士の性交の感染率が最も高いことであった。しかも，これは世界的に見てもかなりの割合を占めている。言い換えればそれだけ多くの男性同性愛者がいるということである。オランダ，ベルギー，カナダ，スペイン，アメリカ合衆国（バーモント州），イギリスでは同性愛者の結婚を認めている。同性愛者の数は世界規模で増えている。同性愛を認めるとエイズが蔓延する要因になるのではないかと思った。同性愛者にはエイズに対して深い問題意識を持ってもらいたい。

［7］私はこの授業でHIVについて調べるまで，HIVに対して中途半端な知識しか持っていなかった。それゆえ，HIVに対して負の想像から多くの誤解をしていた。また，根拠のない噂に惑わされ，自分自身で入ってくる情報を判断することができなかった。患者や感染者と日常生活を共にしていても，エイズがうつる心配はない。エイズ患者や感染者を差別してはいけないということは知っていたが，実際にどうすると感染するのか，具体的なことは何一つ知らなかったといっていい。しかし自分で調べ，仲間と知識を共有し，全体に向けて発表するために内容を練り上げていく過程で，知識だけでなく自分自身の「考え方」もできた。この経験を他の人にも，特に子どもたちにして欲しい。「自ら考える」という経験はHIVの問題だけでなく人生におけるどんな状況でも必要である。エイズは人の力で感染を止めることができる。それは間違いない。

［8］世界中の国々によってエイズの増加要因が違うことはとても興味深い。その国に合った対策を講じなければ意味がない。私は，エイズの問題を単に「ワクチンがないから」「国が有効な援助をしないから」と責任をすべて押し付けるのでは解決しないと考える。われわれができる啓蒙活動や性教育をいかに行うべきかを確立することも大事だろう。日本のエイズの大半が異性間性交渉である実状では，性教育の必要はますます増してくる。性教育は日本のエイズ対策のキーポイントである。

［9］世界でHIVが猛威を振るっていたことは知っていたが，知識がないため感染が拡大しているということは知らなかった。HIVに感染すると職場を解雇されることや，学校に行けなくなるということは差別や偏見によるものである。

自分自身，今回の発表に向けて調べるまでは，HIV 感染者に対して多少の特別なイメージを持っていた。今では，エイズについて正しい知識を持つことが，感染を減らすためにも，差別をなくす面でも重要なことだと思うようになった。また，HIV は特別な病気ではないと考えるようになった。今までは自分の周りに HIV 感染者がいなかったし，今回のようにしっかり学ぶ機会もなかったが，アフリカだけでなく，日本でも自分たちの身近な問題として考えなければならないと思うようになった。

[10] 私はこの授業を受けるまで，エイズについて何も知らないに等しい状態であった。エイズ教育を受けた記憶はあるが，内容を真剣に聞いていなかったのか，あまり記憶にない。エイズは自分に関係ないと思っていたことが原因だろう。エイズについて誤解もあり，差別意識もあった。この授業で，自分でエイズについて調べていくと，エイズは身近なことであって，自分にも関係してくるということが分かった。それまでのエイズに対する意識とは完全に変わり，日ごろの生活でもエイズについて意識するようになった。

[11] 今でもエイズに関する学習は中学や高校でやってきた。しかし，それはとても受動的な学習だったように思う。エイズを扱ったニュースやドキュメント番組を観ても「こんな人もいるんだな。可哀そうだな」程度にしか感じていなかった。今回自分たちで調べ，発表したことで，言い方はおかしいが，エイズを身近なものとして捉えるようになった。それは「自分がいつエイズに感染してもおかしくない」ことから思ったのではない。HIV とエイズの違い，各国のエイズの現状と日本の現状，薬害エイズ事件などのさまざまな観点が一つにつながり，おぼろげながらエイズ問題の全体像が見えてきたからだ。エイズはあってはならない病気だが，確かに存在しているのだ。そのことから目を背けてはいけない。そう思うようになった。

[12] HIV/エイズをめぐる諸問題の中で，私は特に差別問題に関心を持った。私自身は差別意識は持っていないし，偏見や差別はあってはならないと思っている。とはいえ，今までエイズのことを気にかけた事はなく，テレビで見てもおもいっきり他人事であった。第三者でいることは楽であり，差別者よりはよっぽどいいと思っていた。しかし，発展途上国での差別の現状を知ったときには驚いたし，エイズ孤児という何の責任もない子どもが差別を受けている現実は正直悲しかった。そしてそういう現状を知らなかった自分を情けなく感じた。差別する人には問題があるが，予防法を知りながら実行しない人，HIV/エイズのことを何も知らず感染者は可哀そうだと思っているだけの人も同じくらい問題があると思う。そんな人たちを一人でも減らしていくことが感染者増加の歯止めになるのではないかと考える。

[13] 今まで，HIV とエイズの違いについてあやふやにしか理解しておらず，また

感染すると死んでしまうような認識しかなかった。あまり身近な病気と認識していなかったのも事実であった。今回の学習により，この病気に罹ったからといって突然死んでしまったり，また簡単に他人にうつってしまうことはないことも分かった。普通の生活では健康な人となんら変わりはない。でも，もし「自分がこの病気に罹ってしまった……」と思うと不安でたまらないと思う。さらに，病気のことを誰かに打ち明けるということになれば，とても勇気がいるだろう。こんなときに家族や友人の助けは非常に心強い。また，匿名で検査を受けられることは精神的にも楽だと思う。私はこの病気はどうすることもできない病気だと思っていたが，現在では共生できるようになった。感染者はとてつもなく生きる気力を失うだろう。他人に助けられることは一番のパワーである。生きるパワーを少しでも分けてあげられるように，病気の人だけではなく，困っている人を見かけたら手助けしようという気持ちがさらに強まった。

[14] 最初エイズについては，名前は聞いたことがあるという程度の知識しか持ちませんでした。恐ろしく，こんなにも日本に感染者がいることに驚きました。そして日本で感染者が減らないのは，自分のようにエイズについての知識がなく，危機感を抱いていない人がいるからだと思います。少なくとも私は，今回の学習を踏まえ，エイズには絶対感染したくないと思いました。幸いなことは，エイズは自分で予防できるということ。一時の油断で一生を棒に振るようなことはしたくないという気持ちが生まれました。また，感染者の気持ちを考える機会がありました。エイズによる差別も社会問題の一つだと考えさせられました。エイズによる差別なんて今までに思ったこともなかったので，時間をかけてエイズを勉強できたことで，人間として成長できた気がします。次は自分たちが伝えていくことが大切ではないかと考えました。

[15] HIV とエイズは違うという認識は自分の中にあった。また，性感染や血液感染等が主なルートだということもある程度分かっていた。しかし，やっぱりどうも分からない。まわりに HIV に感染している人がいないし，日本は先進国の中で唯一新規感染者が増えているといっても，どこか他の世界の話に聞こえていた。ところが調べていくうちに，次第に HIV について興味を抱き始め「このままでは日本は危ない」と思うようになっていった。もしかすると，日本でも見捨てられたエイズ孤児が出てくるかもしれない，という恐怖である。さすがに子ども同士で生活はしないかもしれないが，引き取り先のない子どもが出てくるかもしれない。また，発展途上国でのエイズ孤児の問題も知らなかったので，「単なる病気」とは違うと，改めて勉強になった。

[16] 今回，エイズについて半期をかけて各グループで独自のテーマを考え，グループ学習という形で進めていった。第1回の講義でアンケートを受けたとき，

あまりに知らないことが多く，自分がなんとなくしかエイズについて知らなかったのだと，少しショックを受けた。血液感染，母子感染，血液製剤による感染という経路は知っていたが，ほかのことは知らないことが多かった。一番驚いたことは，エイズ感染拡大の早さである。特に貧困層（アフリカ圏）での拡大にショックを受けた。日本でも感染者が増加傾向にあり，それこそ他人事ではない。大きな考えの変化としては，エイズに対する危機感を持つべきだということである。「エイズは身近な問題である」，それを本気で考えさせられた半年間であった。

[17] 今の日本では感染者は少なく，身近にいるわけでもないので，自分には関係ない問題と思っていました。しかし，関係ないから知識は必要ない，という考えが間違いであることに気づきました。自分にも感染する可能性はあるということが強く実感できたためです。性交渉する相手が感染しているかどうか調べてから性交渉を行うという人はほとんどいないはずです。すでに自分が感染しているのかもしれません。それだけでなく，身近に感染者がいた場合，これから出会う場合であっても，正しい知識がなければその人を差別してしまうかもしれません。自分のためだけの知識でなく，自分のまわりの人のための知識にもなることを実感しました。身近な問題として考えて行きたいと思います。

[18] エイズに対する自分の考えの変化ですが，私は今までエイズを身近なものと考えていなかったけれど，授業を通して身近なものと考えるようになりました。エイズの予防や感染原因を調べていると，今まで知らなかった原因や予防法があることが分かりました。しかし，この知識を持っているだけでは予防になりません。授業の中で得た知識を実行したり，知識を他の人に教えたりすることが大切だと思いました。

[19] 私はこの授業を受けるまでは HIV/エイズは何となく知っているだけだった。しかし，HIV/エイズの勉強をしていくうちに，私には間違った知識がいろいろあったことを思い知らされた。もし，その時の知識のまま HIV/エイズ患者に会っていたら，偏見の目でその人を見ていたかもしれない。そう考えると，私以外にもまだまだ正しい知識を持っていない人はいるので，その人たちに正しい知識を持って欲しい。HIV/エイズ，それはとても身近な問題である。HIV 感染から守るため，一人ひとりが正しい知識を身につけ，安全な行動をとることで感染は予防でき，HIV 感染者やエイズ患者と共に生きることができる。現在では，適切な治療を受ければ概ね普通の生活ができ，エイズで亡くなることはほぼない。私はこの授業で正しい知識を身につけられた。

[20] エイズについては中学校のときに関連した書籍を読んだこともあり，自分の中ではある程度知っているつもりであった。しかし，今回の発表のために調

べを進めるにつれて，HIVとエイズの相違点，薬害エイズ事件の国の対応，被害者の怒り・苦しみ，ミドリ十字の裏にある731部隊の影など，まだまだ知らないことが多くあることに気づかされた。裁判が終わったからといって薬害エイズの被害者の苦しみが消え去ったわけではなく，いまだに続く問題だということを思い知らされた。21世紀に生きる私たちは，HIV感染者とエイズ患者について理解を深めていく必要がある。その上で，このような事件を決して忘れてはならず，また繰り返してはならないのだと改めて認識させられた。

[21]「HIV/エイズ，と一緒くたに表記されがちだが，そもそもHIVとエイズはまったく別のものだった」。今回の学習において，自分の出発点は先ずそこでした。折に触れ耳にする単語ですが，どちらがウイルスでどちらが病気なのか，いや，それ以前に両方ウイルスでありながら同時に病気を指すのではないかというような的外れな考え方をしていました。なので，最初期の段階でその違いを知ったときには驚きました。それと同時に自分の無知に恥ずかしくなる思いでした。HIVとエイズは，近い人は本当に身近に感染する危険が存在し，遠い他人はまったく縁のない，極端なウイルスと病気です。しかし，いずれも，自己の意識と知識の程度で近くも遠くもなり，さらには近いものを遠くすることすらできる，そう感じました。HIVとエイズの恐ろしさを学んだ今，その意識と知識こそが最大の予防薬であると信じ，今後の人生に生かして行きたいと思います。

[22] 自分は，小学校，中学校とエイズ教育（性教育）の研究を推進している学校だったので，多分他の人よりは多くのHIV/エイズに関する知識がありました。しかし，自分には関係ない，感染することは先ずないだろう，遠くで起こってることだと思っていました。でも，授業を通して，自分で調べて，もっともっと多くのことを知りました。自分では，実際の裁判などを取り上げて深く調べてみて，この薬害エイズというものの残酷さ，悲惨さを強く感じました。もう二度とこんな事件を起こしてはならないと思いました。今後エイズ以外の病気で，エイズと同じように新しく出てくる病気があるでしょうが，エイズのときのような対策では絶対いけません。エイズを教訓に新たな対策システムの確立も重要だと感じました。

最後に，やはり一番大事なのは，エイズを日本中，世界中の人に知ってもらうことです。自分には関係ない遠くで起きている病気という感覚から，誰でも感染の恐れのある病気だと考えを変えていかなくてはいけません。私は授業を通してその部分がもっとも考えが変わりました。

[23] 今回エイズについて調べていくうちに，エイズを身近なものとして感じるようになりました。エイズの初期症状といわれる「キャリア」は，一般的な風

邪の症状と非常に似ていて，エイズの潜伏期間の長さから考えても「ただの風邪，すぐに治るだろう」と安易に考えてしまい，早期発見は難しいだろうと不安にもなりました。無料でエイズ検査が受けられると知っても，やはり本人は「自分に限ってそんなことはない」と思い，検査に行かないと思います。そして知らず知らずに感染が拡大していっているのかと思うと，とても怖く感じました。もっと多くの人にエイズについて，関心を持つという程度ではなく自分の知識として，人に話せるくらいのものを学校で教えていくことができたら，エイズ問題の深刻さも伝わり，避妊具などの予防の大切さが分かるのではないかと考えました。

[24] 薬害エイズ事件は製薬会社，医療機関，官僚等が，自らの利益を追い求めた結果起こった悲劇であり，このような事件は二度と繰り返してはいけません。そのためにも，現在進められている血液事業法を一刻も早く制定させると共に，学校教育にも積極的にこの問題について取り入れ，一人ひとりが HIV についての知識をしっかり持たなければならないと思います。一部の者たちの利益による犠牲を許さない環境づくりが大切であると思います。今，日本では，この他でも一部の人の利益のために多くの人が苦しんでいることは多くあります。それも，このことが元となり，解決していくことを粘り強く願い，そして自分ではどんな行動ができるか，とても考えさせられました。何かできることがあったら実行に移して行きたいと思います。

[25] エイズについて調べていく前は，自分はしっかりと予防できているから大丈夫だと考えていました。しかし，自分のようにきっと大丈夫だから検査しなくて良いと考える人が多くいるため，本当は感染している人から感染が広がり，このような事態になっているのだとわかりました。相手のことを考えるためにも，少しでも疑いがあるのであれば，検査を受けなければならない。先ずは自分自身を知ることによって感染を押さえられるのではと考えました。また，エイズ患者に対する差別は絶対にしてはならない。手を握ったりするだけでは感染しないなど，正しい知識をすべての人が知らなければならない。このためには，義務教育の中で，エイズ教育を，児童生徒がしっかり理解できる内容で教えていかなければならないと思いました。

[26] 僕にとってエイズは恐怖の象徴であった。エイズにはわからないことが多かった。知っていることは「性行為による感染」程度。そのため「汚い」イメージを持っていた。けれど，エイズについて調べるようになって，そのイメージは間違いだと気がついた。エイズ感染している人は，事故あるいは事件によって偶然 HIV に感染してしまっただけである。彼らにはほとんど罪はない。むしろエイズを知っておきながら，処置と対策を怠った政府や血液を扱う会社が悪い。エイズ患者，HIV 感染者は苦しんでいる。負わなくてもいい負い

目を拭おうと必死だ。だからこそ一緒に拭うのだ。それにはすべての人間がエイズについてもっともっと知る必要があるのだ。それが差別をなくす最良の薬だと思った。

[27] この授業でエイズの勉強をする前の自分の知識はかなり低かったと思う。正直，エイズやHIVが世の中で叫ばれていても耳を傾けることがあまりなかったからだ。自分の周りにエイズ患者という人もいなく，普段の生活で意識しなかったからだろう。しかし，グループで調べていくうちに，エイズ患者への差別があまりにも酷いことが分かった。普通の生活ではエイズは感染しない。事実を知らない人が多いことから差別が起きているに違いないだろう。これからの教育では小学校段階からエイズについて話をするべきであり，知らない人に対しても街頭でエイズについてのアピールをしたり，医療機関での正しい知識の提供も必要になってくる。正しい知識を教える機会はたくさんある。その機を逃さないように，多くの人に正しい知識の提供をしていくべきなのだと思った。

[28] エイズについて調べる前までは，ほとんどエイズに関する知識はなかったし，自分には関係のないことだと思っていたが，調べていくうちにエイズという病気の正しい知識を身につけることができたと思う。また，エイズと分かり，治療することも，患者さんにとっては辛いことなのに，周りの人から偏見の目で見られ，差別されることはもっと辛いことだと思った。エイズ患者だけがエイズについて考えるのではなく，私たちも一緒になって考えなければいけないと思った。エイズという病気は簡単に罹るものではなく，防ぐのは難しいと思っていたが，知識があれば防げる病気だから減らすことはできると思った。これからも関心を持ち続けることで，救える命は増えていくと思う。私はこれからも関心を持ち続けようと思う。

[29] この授業を受けるまでは，エイズは怖い病気だけど簡単にはうつらなくて，なかなか治らないもの，それくらいしか分かりませんでした。約半年で，多くの知識を得ることで，エイズへの関心は高まってきました。保健所に行けば匿名で検査をしてくれることは，調べなければ知りませんでした。エイズにかかわる団体があることや，その人たちがどういう活動をしているかなど，自分と同い年の人も参加しているのだということも知ることができました。いろいろ調べていくうちに，私は差別に興味を持ち，班でもそれを担当させてもらいました。そして，医療差別の存在を知り，差別にもいろいろあることを知りました。差別をなくすために自分は何ができるか考えるようになったことが，授業前と後の変化だと思います。

[30] 私は中学校のエイズ教育でHIV感染経路が限られているため，もし感染者と出会ってもその感染経路さえ気をつければ普通に接することができると知っ

た。だから，私の意識の中で，感染者や患者と出会っても抵抗はないと思ってきたし，今回の研究でより一層差別撤廃の意識が強くなった。しかし，日本ではいまだに感染者が増加傾向にあることに関しては驚きを隠せなかった。実際，感染者が近くにいなくて，予防方法に関しての意識はさほどなかった。しかし，確実に感染者が増えている今，周りに感染者がいなくとも，予防の実践がいかに重要なものかを思い知らされた。これからのエイズに対する意識の中に，「予防の実践」ということを組み入れていこうと思う。

[31] 私は小，中，高校のときに保健の授業などで性教育についてほとんど勉強した記憶がないくらいで，身についていた知識は友人間で流れる情報ばかりでした。そのため，調査を行うまでは間違って覚えていたことがたくさんあったし，性病の一つであるエイズに関する知識も少なかったので，HIV/エイズへの関心ゼロといった状態でしたが，今回プレゼンテーションを通して正しい知識が身につき，今の日本の現状も知ることができました。また，今までコンドームを使う理由は避妊のためとしか思っていなかったけれど，それはエイズ予防にもなっている。エイズ感染の可能性が自分にもあるのだと考えると，今まで身近に感じていなかった自分はとても危なかったんだと思うようになりました。

[32] あまり深く知ろうとしなかったHIV/エイズを改めて見つめ直すことができて，改めて正しい知識が必要であることがわかった。また，知らなかったエイズの歴史が分かり，エイズが世界各地に，歴史から来る無知や偏見によっていろいろな差別を引き起こしていることも分かった。だからこそ，日本でも，無知や偏見，間違った予防などで性感染症者が増加する現状があることも分かった。非加熱製剤による薬害エイズに関してもいままで知らなかったことが分かった。HIV/エイズは自分には関係ないものと考えていたが，実際には隣り合わせであることが感じられた。そのことを全体が知ることになれば，今日の増加には繋がらなかったのではないか。これらの教育が重要になってくるので，是非進めるべきであり，もっと推進しなくてはいけないと思った。

[33] 授業が始まったときはHIV/エイズに対しての知識が本当に無かったし，あまり興味も無かった。今回エイズの歴史について調べたのだが，調べていく中でその歴史は短く，しかも起源の説が1つではないということに驚き，戸惑いを感じたことを覚えている。私も中学，高校と性教育やエイズに対する知識を学んできたのだが，それは本当に触りの部分でしかなく，それだけの知識ではHIVやエイズ，性感染症を防ぐことができないと実感した。したがって，学校ではもっと突き詰めた性教育をもっと早い時期から教えるシステムを作って欲しいと思う。この授業はエイズに興味の無かった私にとって，知

り，考えるきっかけになったし，今回得た知識を周りの人にも伝えて行きたいと思う。

[34] この授業を通して，今まで知らなかったエイズの知識が増えたと思いました。先ず，感染ルートがこんなにたくさんあるとは思いませんでした。特に印象的だったのは，自分たちで調べた母子感染についてで，これまで常識だと思っていたことが違っていたことや，全く知らない知識など，とても勉強になり，興味が湧きました。自分が将来母親になるかもしれないということもあり，とても身近な題材だったし，HIV に感染してしまった子どもたちのこれからについてもとても考えさせられることだと思いました。HIV/エイズはとても身近なことであり，近年先進国で HIV 感染者が増えているのは日本だけという悲しい結果も出ていて，これからの問題解決が重要になっていると感じました。

[35] 今回調べ学習をしたことで，エイズに対する考えがより深くなりました。少し知識を得たからといって，すぐにエイズに対する偏見を消し去ることは難しいですが，もっとエイズについて学習し，少しずつ，着実にエイズへの考え方を変えて行きたいです。もし私の近くに感染者がいたら自分のできる限り普通に接すること，力になって普通に日常を送っていくことが大切だと思いました。もっと人々がエイズについて関心を持ち，正しい知識を得ることができたならば差別や偏見はなくなると思います。これはこれからの課題になってくると思いました。感染の確率は低いからといって他人事にするのではなく，周りに感染者がいないからといって無関係だとは思わず，もっと関心を持って勉強を続けていこうと思いました。

[36] 私は，いろいろな人の意見やグループの発表を聞いて，エイズに関する知識が深まりました。大学では女性学でエイズについて学びましたが，セックスの観点からだったので，血液製剤による感染や母子感染など，他の感染経路は勉強していませんでした。もし差別があるとして，一番悲しいのはこの2つの経路から罹った人かもしれないと思いました。今，自分をエイズから守るためにはセックスの知識だと思いますが，今回のほかの班の発表を聞いて，すべての経路のことが大切なのだと思いました。これからも勉強していきたいと思います。

[37] 今までエイズに関して興味はあったものの，自ら調べ，行動に移すことはありませんでした。しかし，エイズの学習をして，自ら調べ，考えたことによってエイズの正しい知識が身につきました。それと同時に，エイズは他人事ではないと実感しています。より多くの人がエイズの現実と真剣に向き合い，真剣に考え，正しい知識を身につけ，自ら予防することによって，エイズの深刻な現状を防いでいけると思いました。そのためには，学校でのエイズ教

育や家庭内での性教育が大事だと思います。私がこれから行って行きたいのは，自分の周りの人にエイズの現状を伝え，一人でも多くの人が他人事ではなく自分のこととして真剣に考えて行動をするということです。教師になった暁には，子どもに対してもエイズ教育を自ら行って行きたいと思います。

[38] HIV/エイズについて調べる前までは「感染すると死んでしまう」「大変な病気だけど自分には関係ない」というようなことを思っていました。しかし，調べてみるとそのことが間違いだったと気づき，HIV/エイズについて間違った知識で考えていたのだと感じました。確かに怖い病気で，最後には死に至る病気というのは間違っていなかったかもしれないけれど，現在の医学では，適切な治療をすれば発病を押さえて健康な人と変わらない日常を送ることができる。また，日本では年々感染者が増加しているし，HIV ウイルスに感染していても気づかない人もたくさんいる。そう考えると自分の周りにも感染者がいるかもしれない。そのことを自覚した上で，今回学んだことを生かして，そういった人のサポートができたらいいなと考えるようになりました。また，以前の自分のように，間違った HIV/エイズ認識をしている人に正しい知識を教えてあげられればいいなと考えるようになりました。

[39] 今回の班のテーマであった母子感染を調べる前は，母子感染の対策や感染率についてほとんど知りませんでした。母親が感染したら子どもにうつるものだと思っていたし，もっと感染率が高いと思っていました。しかし，適切な治療で感染はほぼ防ぐことができ，女性が感染している場合でも妊娠，出産を諦める必要がないことが分かりました。母子感染は，感染率が低いからといって 100%感染しないわけではありません。今，一番思うのは，エイズが治る薬ができたらいいなということです。その薬ができたら，何人の人の命を助けることができるのかと思いました。私たちに大切なのは，エイズについての正しい知識をしっかりと身につけることだと思います。エイズを身近なものには感じられないけれど，「関係ないもの」と考えないこと。そうすれば，正しい行動が取れると思います。自分でできる最大限の予防をし，感染の心当たりがあるような行為をしないことが何よりもの対策だと思います。

[40] プレゼンテーションに向けて HIV と性教育のテーマを調べるまで，私は HIV とは何も考えずにセックスするような人たちがなる病気だと思っていたし，回りにも HIV に感染した人はいないので，自分には関係ないと思い，本当に HIV という病気が存在しているのかさえ実感がないままでいたが，今回このテーマを調べるにあたり，HIV は日本で確実に拡がりを見せており，今現実に住んでいるこの名古屋という街でさえ年々増加しているということが分かった。エイズはとても恐ろしい病気だというのも，ただ死ぬということでなく，世間ではあってはならないが，差別をされ，気を使うということも

知ることになった。前の私ならば，自業自得と言っていたのだが，無理矢理セックスさせられて感染してしまった人もいるようである。HIVについて自分は関心がある方だと思っていたが，何も知らなかったんだと思わされました。

[41] 最初はHIV問題はもっと小さな問題で，たいしたことはないと考えていた。しかし，実際の数値を見てみると，日本でも何千人という人がHIVで苦しんでいた。世界に目を向ければ，サハラ以南アフリカでは2580万人という人がHIVに苦しんでいた。しかも，彼らにはエイズ教育を受ける場もなければ治療してもらう場すらないというではないか。発展途上国では，教育の場が成り立っておらず，エイズ教育を受けられずにエイズに罹っていく。それに比べて日本はどうだろう。エイズ教育を受ける場はある。しかし，それでもHIVに罹っていく。たしかに，発展途上国に比べれば患者数は少ない。だが，確実に年々HIV感染者は増加している。「ある程度抑制できた」「発展途上国に比べれば少ない」。こう言ってHIV問題を疎かにしていいものだろうか。われわれはもっとHIV問題に真剣に取り組むべきである。エイズ教育を行う場はあるのだ。では何がいけないのか。教育方法である。われわれ日本は，性教育を見直し，HIV患者が減少するように努めなければならない。そして，その上で発展途上国に対し援助をしていくべきである。

[42] HIV/エイズは自分とは別世界の話で関係ないことだと高を括っている部分があった。しかし，日本は先進国で唯一HIV感染者が増加していることを知って，危機感を覚え，真剣に考えるきっかけになった。私は母子感染について調べていくうちに，HIVに感染した子どもたちはどんな生活を送っているのかという不安を持った。確かに自分が親なら，普通の子と同じように過ごさせたいと思う。しかし，怪我などにより出血したときのことや，病気に対する偏見が心配になる。子どもだし，知らないうちに人様に感染させてしまったり，迷惑をかけることがあるかもしれない。果たして，普通の生活を送らせてよいものかと疑問を持った。しかし，別にうかがった話によると，受け入れを拒否していた保育園も担当医の説明により通うことができるようになったそうだ。私はその話を聞いて，もっと世間の人に正しい知識を与え，受け入れられる環境を整えることにより，生まれながらにして持っているあたりまえの権利を通してよいはずだと思うようになった。

[43] エイズは自分にはまったく関係のないことだと思っていた。HIVやエイズについて調べていくうちに，もし，自分が感染していたらどうしようと考えるようになった。しかし，まだ私の中ではエイズは遠い存在ではある。身近にHIV感染者がいないし，検査にも行っていないからだ。普段の生活をしていれば簡単に感染しないというのは調べてきて知っている。しかし，「いつ」

「どこで」「誰が」感染してしまうか分からないので，全く関係のないことではないと考えるようになった。

HIV とエイズの違いが分かっていなかったときは，HIV に感染したらすぐ死んでしまうのだと思っていたけれど，現代の医学では，薬などもあってエイズの発症を抑えることもできる。とても怖い病気ではなくなったといっても，予防は大切である。身近な病気になりつつある日本では，全く関係のないことではないのだと思った。

## 文　献

岩崎礼子・舩田松代・市川誠一・鳥羽和憲　1997　横浜市内の女子大学生におけるエイズについての意識と教育効果に関する研究　横浜女子短期大学研究紀要，**12**，1-23.

舛田弘子　1994　エイズ学習に及ぼすウイルスについての説明の導入の効果　日本教育心理学会発表論文集，**36**，428.

舛田弘子　1995　エイズ学習に及ぼす血液・体液・HIV の関連の説明の効果　日本教育心理学会総会発表論文集，**37**，127.

Sharan, Y., & Sharan, S 1992 Expanding cooperative learning through group investigation. Teachers College.（石田裕久・杉江修治・伊藤篤・伊藤康児訳　2001「協同」による総合学習の設計―グループ・プロジェクト入門　北大路書房）

山田明男　2004　本学におけるエイズ教育について　東大阪大学・東大阪大学短期大学部教育研究紀要，**1**，66-68.

山田明男　2005　本学におけるエイズ教育について 2　東大阪大学・東大阪大学短期大学部教育研究紀要，**2**，122.

（受理日　平成 19 年 7 月 11 日）